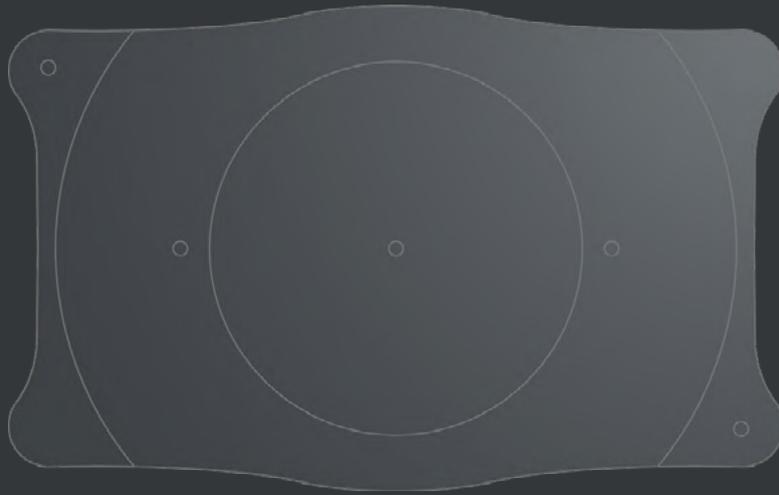


ICL

Implantable Contact Lens



ICLで、やりたいことを思いのままに





ICL、 わたしの選択が変わる。

何も躊躇しない生活へ。

ICLで、これからはあなたの思いのまま。

今までやりたかったこと

全てにトライできます。

日常の煩わしさから卒業して、

自由を手に入れましょう。

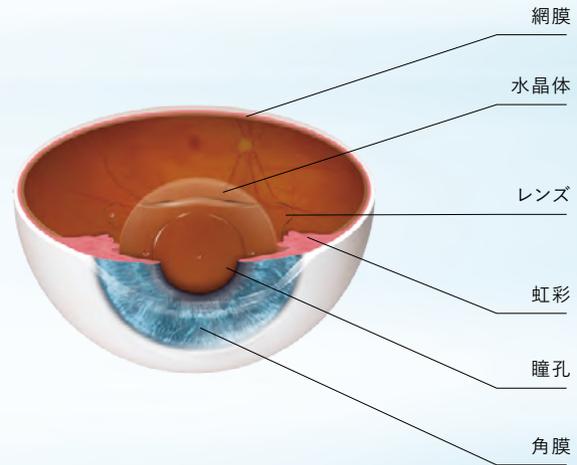
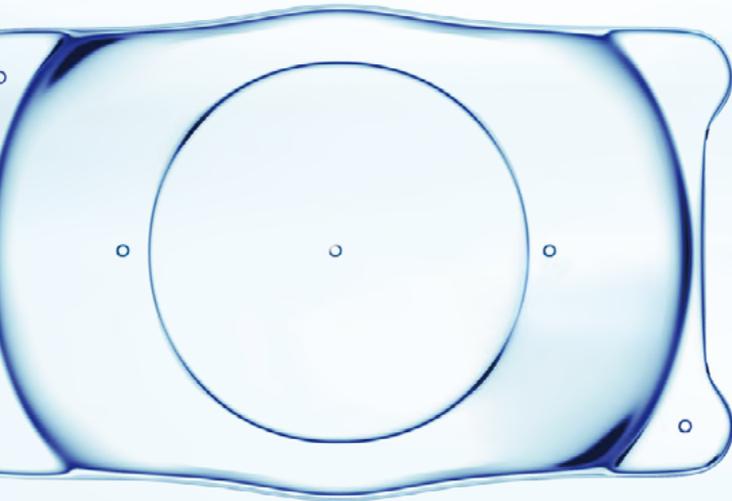
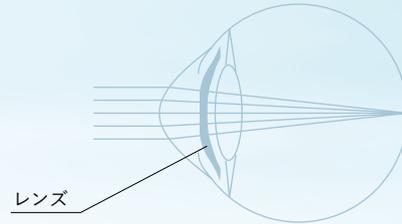


ICLとは

ICLとは、Implantable Contact Lensを使用した治療法(術式)の名称です。

眼内コンタクトレンズ治療やICL手術とも呼ばれ、レンズを目の中に挿入し、近視を矯正する治療法です。

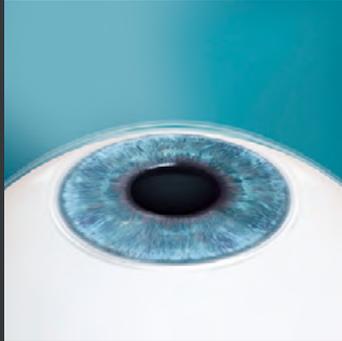
ICLは世界75カ国以上で使用され、300万眼を超える販売実績があります。



角膜の縁に約3mmの小切開を行い、
レンズを挿入します。

*手術当日には、目薬で局所麻酔をするので
日帰りの手術が可能です。

手術の概要



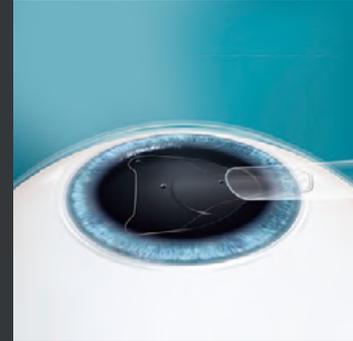
① 術前検査

ICL手術を決定する前に、定められた様々な検査を行います。



② 術前処置(手術)

点眼薬によって術前に瞳孔(ひとみ)を広げ、目を麻酔します。



③ ICLの挿入

点眼麻酔の後、角膜の縁を約3mm切開し、ICLを眼内に挿入します。



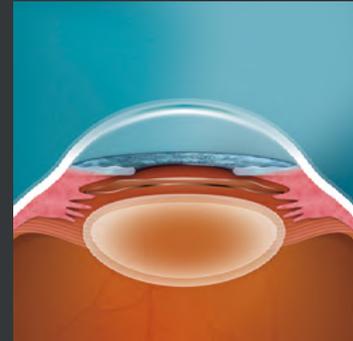
④ ICLの位置整復

ICLを虹彩(茶目)と水晶体の間に設置します。



⑤ 最終ステップ

瞳孔を収縮させ手術は終了です。切開した角膜の縁は自然閉鎖します(無縫合)。院内でしばらくお休み頂いた後、目の状態を検査し、問題がなければ帰宅することができます。



⑥ 術後の定期検査

定められた手順にしたがって、炎症を抑えたり、感染症を防ぐための点眼薬が処方されます。医師の指示に従い定期検査を受けてください。

ICLならもっと自由に



あらゆるシーンで裸眼のまま

ICLは目の中にレンズを挿入するので、起きた瞬間から眠る時まで、レンズを意識することなく、1日のあらゆるシーンを裸眼で思いのままに楽しめます。



目に優しい素材

ICLはコラーゲン由来の生体適合性の高いレンズであり、リスクが低く、目に負担がかかりません。また、半永久的に使用可能で、手術後に違和感や異物感を感じることもありません。



短時間で終わる日帰り手術

ICLの手術は、目薬で麻酔を行うため、痛みはありません。角膜の縁にごくわずかな切開をつくり、そこからレンズを挿入します。手術時間は両眼で平均20～30分。入院は不要です。



ずっとお手入れ不要

目の中のレンズは、くもったり汚れたりしないので、日々のお手入れやメンテナンスは不要です。目の中でゴロつきを感じることもなく、いつもストレスフリーでいられます。

ICLとは… Implantable Contact Lens(眼内コンタクトレンズ)の略で眼内コンタクトレンズの
カテゴリー名称であるとともに同レンズを用いた視力矯正治療も含まれます。



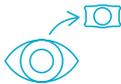
紫外線カット機能も

ICLにはUVカット機能が備わっており、あなたの目を紫外線から守ります。



ドライアイになりにくい*

他の近視・乱視治療とは異なり、ICLはドライアイを起しにくいとされています。



手術後、医師による取り外しも可能

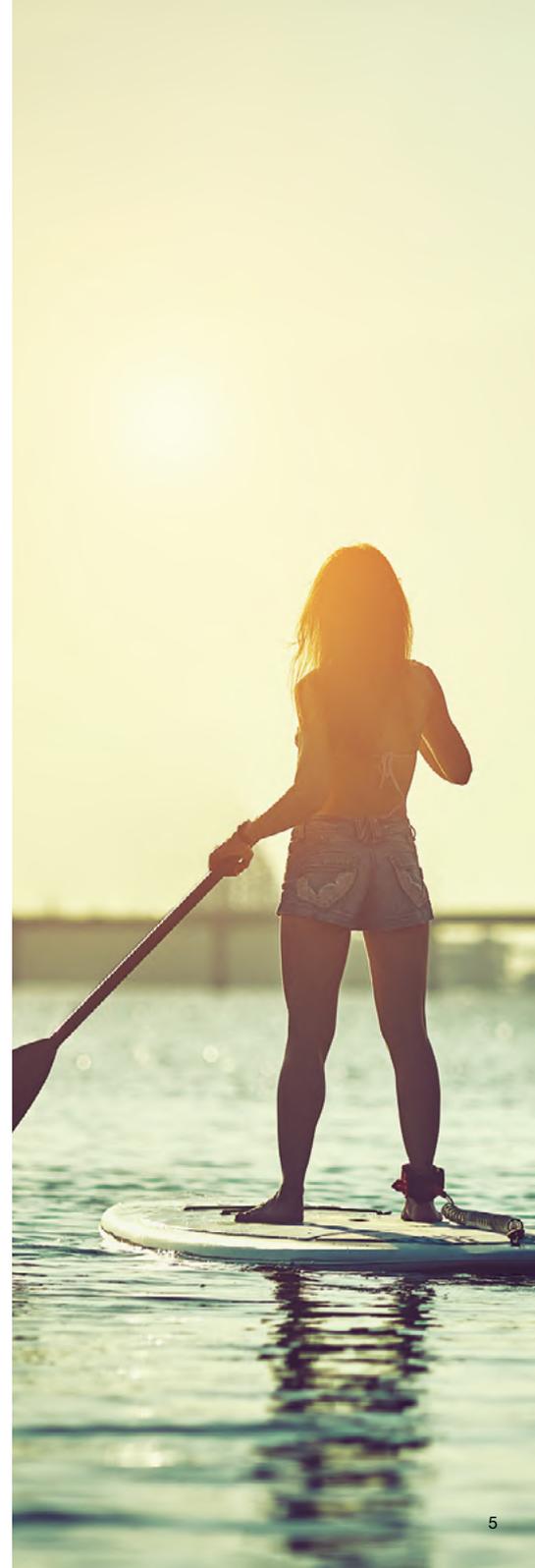
必要に応じて、手術後にICLを取り外し元の状態に戻すことができます。



幅広い近視・乱視の方に適応

ICLは、幅広い強度近視と乱視まで適応しています。また、角膜の薄い方でも手術を受けることが可能です。

* 参考文献: Analysis on the changes of objective indicators of dry eye after implantable collamer lens (ICL) implantation surgery Hao Zhang¹ · Yingping Deng¹ · Ke Ma¹ · Hongbo Yin¹ · Jing Tang¹



ICLの実績

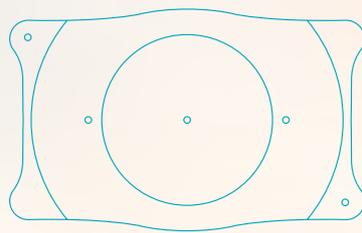
世界**75**カ国、累計**300**万眼以上[※]の販売実績。

ICLは1997年に欧州で導入されて以来、世界75カ国で累計300万眼以上[※]の販売実績があります。国内では2003年から治験が始まり、2010年には医療機器として厚生労働省の承認を取得しました。

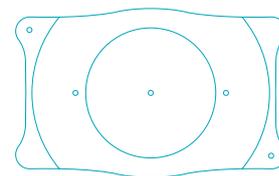
※2024年現在



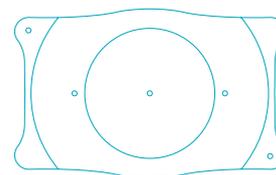
進化を続けるICL 30年以上の視力矯正の歴史



手術後の主な症状



手術にはメリットだけでなく、デメリットも存在します。
手術後は、主に下記の症状がみられます。
詳細情報およびご不明な点は、担当医師にお尋ねください。



見え方について

視力の変動	ハロー・グレア(光の環)
術後1週間ほどは炎症などで視力が変動することがあります。	夜間、暗い中で光を見たときに、まぶしさを感じる場合があります。症状の度合いや期間には個人差がありますが、一般的に、治療後数か月で自然と気にならなくなります。

一般的な症状(帰宅～翌日)

違和感・充血・目のかすみ
切開部分が治癒し炎症が治まることで、時間とともに自然に改善します。術後数日で視力が安定し、快適な視力で過ごせるようになります。術後に処方される目薬は医師の指示に従ってください。

手術後の注意事項

手術後の一定期間は、日常生活において以下の項目について制限があります。
詳しくは医師の指示に従ってください。

◇洗髪・洗顔 ◇化粧・アイメイク ◇運転 ◇プール ◇シャワー・入浴 ◇飲酒・たばこ ◇運動

Q&A よくある質問

Q. 誰でも受けられますか？

A. ICLは、幅広い強度近視と乱視まで適応しています。
また、角膜の薄い方でも手術を受けることが可能です。
ただし、目の形や病気、全身疾患などによって
対象とならない場合があります。

Q. 手術は痛いですか？

A. 目薬タイプの点眼麻酔をしますので痛みはほとんどありません。

Q. レンズを入れていることは他人に気が付かれますか？

A. 虹彩の後ろに挿入するので、外からは見えません。

Q. 費用は公的医療保険の対象ですか？

A. 公的医療保険の対象ではありません。

Q. 老眼も治りますか？

A. ICL治療では近視や乱視など屈折の矯正を行いますが、
老眼の治療ではありません。



ICLのご相談は当院まで



 **STAARSURGICAL™**
Leading the ICL Culture